

KINGCA WEEK 2023 に参加して

熊本大学大学院 消化器外科学

前田 裕斗

2023 年 9 月 14 日～9 月 16 日に日本胃癌学会より参加助成をいただき、KINGCA WEEK 2023 に参加させていただきました。現在は卒後 8 年目、熊本大学病院の前田裕斗と申します。2016 年に福岡大学卒業後、熊本の熊本中央病院にて初期臨床研修を受け 2018 年 4 月より熊本大学病院 消化器外科学に入局し、日々研鑽を積んでおります。

海外渡航に関してですが、日本では大型連休が明けた 2023 年 5 月 8 日より、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5 類」に移行したため、ようやく「ウイズコロナ」から「アフターコロナ」に転換し、比較的容易に現地参加、発表を行うことが叶いました。国際学会に参加して、まず思ったことは、国内学会と異なり、多くの他国から参加された医師の英語力の高さです。私自身、これまで論文の執筆等程度の英語の読み書きをすることしかなく、海外学会で発表機会がありませんでした。近年、国内学会も英語のスライドやセッ

ションが多い中で改めて世界に通ずるため、自身の英語能力を鍛える必要があると感じました。

数多くのセッションに参加し、素晴らしい発表を聞くことができました。熊本大学の馬場秀夫教授より、胃癌に対して胃切除術を行う上で病院の年間症例数と外科医による年間症例数が、術後合併症と関連していることが明らかになった上で、日本での National Clinical Database (NCD) ベースシステムを網羅的解析し、胃癌治療の集中化の可能性についての発表を聴講しました。また印象に残ったのは JP Kim Memorial Lecture でした。以前、アジア諸国と欧米諸国の胃癌ステージに関連した生存率の比較をした上で、リンパ節郭清の可能性を検討した 1989 年のオランダでの試験である D1-D2 無作為化試験の解析で D2 リンパ節郭清の有益性が示された内容や術後補助療法における歴史的背景を聴講しました。また、NAC の今までエビデンスと現在行われている試験や胃癌手術における低侵襲手術の比較、胃癌患者のワークアップにおける診断的腹腔鏡検査と PET-CT の使用 (Plastic 試験) を教えて頂き、大変勉強になりました。また、学会中は国内でご活躍されている高名な先生方と挨拶する機会も頂き、いい経験をさせていただきました。

時間の都合上、施設見学はできませんでしたが、次回に機会があれば参加したいと思います。また、今回の経験を通して今後も海外学会参加を続けていき、日々の

臨床に少しでも活用できる様精進していきたいと思いました。最後にはなりますが、このような機会を与えていただきました日本胃癌学会の掛地吉弘理事長をはじめとした委員の皆様、この度は誠にありがとうございました。

以下写真データ



写真 1:oral presentation の様子